



KsKR

# パンジー だより



特集

## 入所施設を出て、地域で自分らしく生きる

絵：古坂はるか

あけましておめでとうございませう。2003年、5年にかけて障害者福祉は大きな曲がり角にきています。当事者が自分で選ぶというノーマライゼーションの思想に裏付けられた支援費制度が始まって2年もしないうちに、財源不足を理由に介護保険に統合される案が出されました。さらに「今後の障害保健福祉施策について（グラッドデザイン案）」では、知的障害者にとって地域生活の柱とも言えるグループホームについて、障害の程度によって住むところを分けられる等、今のグループホームのよさをくつがえすような内容に驚きをおぼせません。そして三位一体改革による福祉の一般財源化が言われ、憲法までもが「改悪」されるような勢いです。

今回の特集は「入所施設を出て、地域で自分らしく生きる」。現在、全国に入所施設は1622カ所・分場111カ所あります（2004年11月30日現在・WAMネットより）。約13万人も知的障害者が暮らす入所施設とはどんなところなのでしょう？ 今号では、入所施設で暮らしていた2人の当事者にインタビューをお願いしました。彼らの口から出てくる入所施設の暮らしは「自由がなく、自分で決められない」というものです。そして多くの当事者は施設を出たい、入所施設は嫌だと訴えています。しかし、現状は知的障害者の入所施設から地域生活への移行率は、たったの1%です（「知的障害者の入所施設から地域への移行に関する研究」より）。

立教大学地域移行研究センターの遠藤さんは「地域移行できるかどうか」「本人の「能力」を職員が判断している」と書かれています。また、入所施設で暮らしてきた松岡さんは「できる、できないに関係なく、支援してもらいながら地域で暮らすことが目的だ」と言います。1%を乗り越えるためには、当事者の「能力」を職員が手前勝手に判断せず、「どんなに重い障害を持つ人も地域で暮らすことを支援する」という意識の改革が必要ではないでしょうか。

知的障害を持つ人たちが入所施設を出て地域で暮らせるようになるには、いろんな制度や、支援が必要です。でも支援があれば、だれでも地域で暮らすことができるのです。

# 入所施設からの地域移行

## 地域移行の質を問う

立教大学地域移行研究センター

遠藤美貴

先日手にした、パンジーだより53号にパンジーが行なった「当事者アンケート調査」の結果が掲載されていました。調査を行なった209名のうち、「将来、入所施設で暮らしたい」と答えた人は2名だけだったというものでした。私たちも、昨年度、地域移行の取り組みをはじめている2つの施設において、入所施設から地域に住まいへと移行した知的障害をもつ本人に①入所施設での生活について②地域移行について③移行後の地域生活についてインタビュー調査を行いました。

籍はまだ入所施設にある自律訓練棟で生活している方も含め、インタビューをさせていだいた70名の方全員が「現在の地域生活と以前の施設生活では、現在のほうがいい」と答えています。このような声は、彼ら

の本音であり、私たちが最も尊重すべきものではないでしょうか。ここでは、調査の中から明らかにした「入所施設からの地域移行」に関する実態を述べたいと思います（詳細は今年度末発行の『厚生労働科学研究成果報告書』参照）。まだ入所施設で暮らしている約13万人の人が地域に移行する際にどのような支援が必要なのか？移行後もどのような支援があれば、地域でより豊かな暮らしができるのか？少しでもみなさんが考えてくださるきっかけになればと思います。

### ①入所施設での生活について

「規則がたくさんあり窮屈だった」「ケンカがあり嫌だった」など否定的な印象が多く語られました。そし

て多くの方が「施設を出たい」と思っていたにも関わらず、なかなか相談できずにいたことが分かりました。

### ②地域移行について

「入所施設↓施設内自律訓練棟↓地域の自立訓練棟↓グループホーム」という流れで、地域への住まいに移行している方がほとんどでした。引越す前に「説明、見学」や「職員と一緒に家具を購入する」「宿泊体験をする」などの、引越した後

グ的段階を経てグループホームへ移行しているということは、グループホームに移行できるか否かという「本人の能力」を、「職員」が判断しているということも分かりました。

### ③移行後の地域生活について

就労の場や日中・余暇活動の場について選択肢が充実しているかどうかは、グループホームをバックアップしている施設によって違いがありました。しかし、例え充実した選択肢であっても、施設が準備したものが大半であり、地域やそこで暮らす人々を巻き込んだ場にはなっていないようでした。一方で、本人の会

や自治会などが、地域での孤立化を防ぐ場のひとつとなっていました。また、食事のメニューや日用品の購入などは本人の希望が反映されるような支援は提供されていましたが、金銭管理の支援や今後の人生を見通すような支援、職員や世話人への苦情を拾い上げるような支援はほとんど提供されていませんでした。

このように地域への移行を本人の能力を基準にして職員が進めていたり、生活に関わる重要な事柄への決定を職員が中心に行なっていることから職員と本人の間に上下関係が見えてきます。また、地域に出ることを選択できる機会は多少増えたようですが、その内容が日常生活のことに留まっていることや、就労の場や日中・余暇活動の場を施設が準備・支援していることが、本来なら地域で得られるはずのさまざまな機会を妨げているとも考えられます。このような実態は、入所施設の生活とあまり変わりない状態であるとも言えます。入所施設からの地域移行とは、暮らす場所を地域に移すだけでなく、施設内にあった職員との上下関係をなくすこと、選択肢の幅や内容を広げること、さまざまな機会が得られる環境や支援について考えることも含むものでなければなりません。

また、すでに地域生活を始めている仲間からの情報は、未知なる経験に対する不安の軽減に役立つことや仲間が集まる場が日中活動

や余暇活動の場の1つとなり孤立化を防いでいることから、本人の会が地域生活をより豊かにする役割を担っていることが分かりました。今後は、日中・余暇活動の場に留まらず、本人たちが中心になり、本人たちの声を制度・政策に反映させるような活動も求められてくるでしょう。そして、そのような活動が、先に述べたような地域移行や地域生活における課題解決につながっていくのではないかと思います。

### えんどう・みき

入所施設で働いた後、四国学院大学社会学部修士課程へ。修了後、短期大学教員を経て、現在に至る。主に知的障害をもつ人々の自己決定支援や本人活動の研究を行っている。

「4月に四国・香川県を離れ、関東で生活を始めたが、いまだに複雑な電車の路線に慣れず、反対方向へ行ったり、乗り越したり…。なかなか刺激的(?)な生活です」。

# 地域生活を 選び取った 当事者たち

## 施設より、地域で暮らせるほうがいい

### 野村信久

(クリエイティブハウス「パンジー」)

僕が、前にいたS福祉センター(入所施設)と、今くらしている「てくてく」グループホームを比べると、施設は自由がなく、とっても嫌でした。

施設は、朝七時に起きてご飯を食べ、ラジオ体操と朝の会をして、ジョギングをします。それから作業をします。紙袋を折ったりしていました。給料は多い人で月30000円くらいで、ボーナスはありませんでした。仕事は3時に終わり、月・水・金はそれからお風呂

呂に入ります。他の日は、部屋でテレビを見たりして過ごしました。2人部屋で、見たいテレビもあり見られなかったです。

夕食は5時頃で、8時頃になるとおながすいたなと思っていました。職員が9時に電気を消すので早く寝なければなりません。

土曜や日曜は1日部屋で過ごしていました。買い物は月に1回しか行けなかったし、1日100円の小遣いしかもらえませんでした。アルコールもタバコもだめでした。

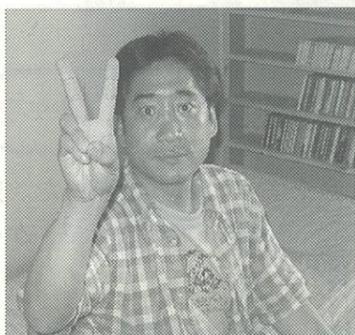
それに比べると、グループホームはとても自由です。持てるお金も施設に比べると多いです。時間が自由で、眠たいと思えば、適当に寝られるところも良い。ビールとか酎ハイとか飲めるのもとてもいいです。部屋も1人部屋で自由です。

今、僕の部屋にはCDやMDデッキ、液晶テレビがあります。僕がうれしいのは、グループホームで生活して、電化製品がいっぱい持てたことです。入所施設だと、こんなに電化製品は、とてもそろいませんでした。

今、僕が気にしているのはおしゃれです。入所施設にいたときはジャージが当たり前だったけど、グループホームでは、みんなジーパンとかはいているので僕もおしゃれはとっても気になります。髪の色もグループホームに入って変えました。

僕はグループホームに入って対府交渉もしました。大阪府に「入所施設をつくるな、グループホームを増やせ」と言いました。施設より地域で暮らせるほうがいいと思います。

入所施設よりグループホームが最高です。



## 「ぼくの体験」施設での生活と地域での一人暮らし

### 松岡敏雄

(ビーブルファースト北海道)

ぼくは、19歳から30歳まで東京の七生福祉園に11年間入所しました。その後、北海道の「札幌育成園」系列の「寿都浄恩学園」に入れてあげるといわれ、入りました。寿都浄恩学園は、とんでもない「悪い施設」でした。

年金は全部寄付だと取られ、働いても給料は貰えませんでした。福祉事務所の人も、施設の理事長や施設長も施設の中身をぼくにわかるようには教えてくれませんでした。だから今、裁判を起こして闘っています。

寿都浄恩学園は禁酒禁煙で、こずかいを一円も持たせてくれず、缶ジュース1本、飲めませんでした。洋服や下着や靴下など職員が段ボール箱で町から買ってきてサイズだけ合わせて仲間たちに配るのです。色や好みの柄など何も言えませんでした。

た。そんなことを言えば「正座」とか「食事抜き」とか叱られると話していましたが。お風呂は週3日しか入れませんでした。施設には70〜80人の当事者がいるのに泊まり職員は2人でした。

脱走しましたが、見つかって連れ戻されました。食堂の中で一週間「飯抜き正座」させられました。「罰」の間、ぼくは意地を張って水だけ飲んで暮らしました。とてもお腹がすくし、悔しかったです。

ぼくは、そんな施設が本当に嫌になって、施設を出ることにしました。札幌の地域生活で大事なこと

家事は一人だと難しいのでホームヘルパーなどに手伝ってもらっています。ガイドヘルパーの制度もあり、知らないところへ出かけるときに使えます。

ぼくは一人だと計画してお金を使えなくて、あればあったけ全部使ってしまう。いっぱい失敗しました。今は作業所の人にてつだっても



ビーブルファースト大会分科会で司会をする松岡さん(いちばん右)

自分の思ったことをなかなかいいだせない。でもいろんな活動の中で、支援者に手伝ってもらったりして、少しずつできるようになってきたと思います。

札幌での一人暮らしのよいところは、自分の自由な生活ができることです。アパートを選ん決めて、住むこと。遊びに行くところを決めること。好きな洋服や食べ物を買えること。自由があります。ぼくは施設を出れて、本当によかったと思います。

入所施設はもういらない。できる、できないに関係なく、支援してもらいながら、地域でくらすことが目的だとぼくは思います。

# たい かい ファースト大会

みんなのパワーをひとつにしてよりよい<sup>せいど</sup>制度をつくろう！  
2004年11月6日～7日

## い に行ってきました！

「第11回<sup>だい かい</sup>ピープルファースト大会<sup>たい かい</sup>IN徳島<sup>とくしま</sup>」に行ってきました。全国から約750名が参加し、パンジーからは60名が参加しました。

※ピープルファースト・・・1970年代に、アメリカで「障害者である前に人間だ」という思いで、知的障害を持つ人たちが自身の権利獲得のために立ち上げた運動。日本では、1994年から毎年各地で全国大会を開催し、約1000人前後の人が参加している。

### 😊 すーっとするで！

- 今年<sup>ことし</sup>は発言<sup>はつげん</sup>せんかった。ちょっとしてみたい。
- 「入所施設<sup>にゅうしょしせつ</sup>ばかりじゃなくて、グループホーム<sup>ぐるーぷほーむ</sup>に金回せ<sup>かねまわ</sup>って国<sup>くに</sup>の人に<sup>ひと</sup>言う<sup>いう</sup>たんや。気持ち<sup>きもち</sup>ちええで。すーっとする。

### 😊 交流会のこと

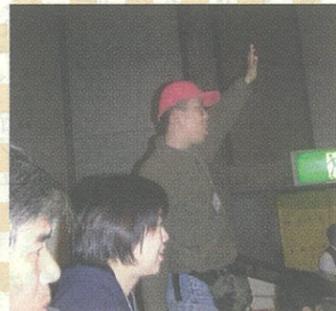
- 交流会<sup>こうりゅうかい</sup>の食べ物<sup>たもの</sup>がうまかった。寿司<sup>すし</sup>を取ろうと思<sup>おも</sup>ったらなくて、ケーキ<sup>た</sup>を食べた。
- 阿波踊り<sup>あわおどり</sup>をわいわい<sup>わいわい</sup>踊<sup>おど</sup>ったのが<sup>たの</sup>楽しかった。



し かい うめはらよしのり  
くに司会<sup>し かい</sup>の梅原義教<sup>うめはらよしのり</sup>さんが見<sup>み</sup>えました。がんば<sup>がんば</sup>っていました。



パンジー<sup>パンジー</sup>の<sup>ひと</sup>人が<sup>おほ</sup>多く見<sup>み</sup>えます。たの<sup>たの</sup>しそうにおど<sup>おど</sup>っていました。



しつもん<sup>しつもん</sup>しようと思<sup>おも</sup>ったのに<sup>つよし</sup>剛<sup>つよし</sup>くんの<sup>ごんなん</sup>前で<sup>まえ</sup>終わ<sup>おわ</sup>ってしまいました。残念<sup>ざんねん</sup>です。



ぶん かが  
文化センター<sup>ぶん かが</sup>の正面<sup>しょうめん</sup>です。



あ わ お ど  
阿波踊り<sup>あ わ お ど</sup>は徳島<sup>とくしま</sup>名物<sup>めいぶつ</sup>。  
みんなも<sup>みんな</sup>りあが<sup>りあが</sup>っていたなー。

THE DOCUMENT COMPANY  
**FUJI XEROX**  
大阪ゼロックス株式会社

時 ■ 愉  
■ ■ ■  
空 ■ 間  
一級建築士事務所

E-MAIL jiyu\_ao@d2.dion.ne.jp  
URL http://www.d2.dion.ne.jp/jiyu\_ao  
TEL/FAX:06-6943-0766 MOBILE:090-3994-8301  
大阪市中央区内本町1-2-1  
大晋第3ビル703 〒540-0026

保健・医療・福祉をコンピューターでサポートする

株式会社  
**ワイズマン**

大阪支店  
〒564-0052  
大阪府吹田市広芝町8-12 第3マイダビル 6階  
TEL.(06)6330-0799 FAX.(06)6330-0554  
URL http://WWW.WISEMAN.CO.JP

総合給食サービス  
**ナニワフード**

ナニワフード株式会社  
〒544-0015  
大阪市生野区巽南5丁目4番26号  
TEL.06-6791-8962 FAX.06-6791-8762

**広告募集！**  
このスペースに  
広告を出しませんか？

1枠 3000円～5000円  
お問い合わせ先パンジーⅡ  
TEL 0729-60-3610

# ピープルフ

## 来年こそは!

- 来年は新潟で大会がある。お別れしたのがさみしかった。でも、また来年があるから。
- 今年は行ってない。来年は行きたい。お母さんはうるさいけど…僕は行きたい。みんなと一緒に。

## 厚生労働省の役人とのこと!

- 厚生労働省とピープルファーストが激しく話し合ってたよ。けっこう文句言うてた。もっとけんかしたら、もっとよかったな。



# 徳島

## なかまのこと

- 土本さんの大会決議がよかった。みんなでやるっていうことは協力があって、それがよかった。
- 友達に会えたし、交流できたし、とても楽しかった。恋愛の分科会で「結婚します」って発言しました。それがよかった。
- 分科会で、司会者が「ちょっと静かにしてよ」と当事者に注意していて、ちょっと、恥ずかしかった。「なんでここまで言うのかな」と思った。静かになるかなと見ていたらいいと思った。



## つよしさんの フォト・レポート 「とくしまのこと」



徳島駅前の地図です。



駅前の料理屋。カニやイセエビがめだちます。たべたいなー。



入場行進。たくさん人がいて、みんなをおうえんしていました。



11月だったのではやいような気がしました。サンタのおじさん、かわいい〜。



徳島大会初日のおべんとう。おいしそうですね。



ほくのあこがれの  
みねこさんです。



はるか

座っているだけで  
身体の具合がよくなる

車いす・座位保持装置があります  
是非御相談ください

**(有)ピーエーエス**

吹田市五月が丘東13-18第2誠和ビル2F  
TEL06-6816-8008

**(株) 岸沢設備工産**

TEL 0729-81-1671

東大阪市善根寺町5-1-38

- 東大阪市上下水道指定店
- 大東市上下水道指定店
- 給湯器取替・住宅設備全般

**おしゃれ宣言2004**



ビデオ 3000円  
DVD & PhotoCD 3500円  
好評発売中!

パンジー I TEL0729-60-3610

ブルーステーションの大阪日産モーター  
東大阪北店



〒578-0973  
東大阪市東鴻池町2-4-16  
TEL. 0729-62-1501  
営業時間/AM9:30PM6:00  
ショールームはPM8:00までOPEN  
定休日第一月曜・毎週火曜日

企画/編集/ブックデザイン/パンフレット など作成します

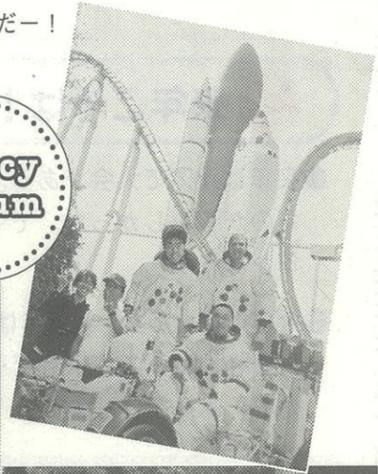


ROSO  
DESIGN OFFICE  
驚草デザイン事務所  
京都市中京区三条東河原東入菱屋町44番地  
三条高倉アーバンライフ103号 〒604-8131  
TEL.075-253-0220 FAX.075-253-0221  
E-mail:roso@cd5so-net.ne.jp

# パンジー旅行 in 九州

スペースワールドで。宇宙飛行士だー！

水しぶきが！



湯布院の金鱗湖にて。気持ちいい。



海地獄で、ゆったり足湯。



100名の大旅行！ 2泊3日で九州に行ってきました。

## 問題になっている行動Ⅲ

パンジー・スパーパイザー  
中新井 滯子

「問題になっている行動Ⅱ・Ⅲ」で書いたように要求の手段や方法は持っているにもかかわらず、そして、伝えさえすれば実現に向けて支援してくれる人が側にいる場面ですら、要求を表現することに怯えたり、とまどったりしてそのフラストレーションが自傷他害行動に結びつく人達のこと、ずっと気になっている。

先日保育所でも気になる場面に出会った。重知知的障害を持つAくん(6歳)は家の事情があり、朝食を食べていないことが多い。保育所側はその分を、給食で補う方針で、積極的におかわりを勧めてきた。Aくんも給食は大好きで、おかわりの要求は食器を保育士の所へ持っていくことで表現できるようになってきた。にもかかわらず、彼は何かを避けるかのように皿を持った手で耳を押さえて、保育士の前を行ったり来たりする。そして意を決するようにお皿を差し出すのだ。その姿はパンジーのDさんに重なる。自傷行為の激

しかったDさん、今ではパンジーでもすっかりくつろいだ状態で過ごせるようになった。いつか、いびきをかいて眠ってしまったことがあり、以前眠いの眠れずイライラして自傷を繰り返していたのが嘘のようだ。そんな彼も給食のおかわりとお茶の要求(いつも持っているペットボトルがなくなった時)の時は、今でも落ち着かない。ソワソワしたり、声を出したり、顔を叩くまねをしたり、そしてスタッフや私が横にいると食器やボトルを「やってくれ」とばかりに差し出す。誰も側にいない時はどうするのかわからないと見ていると、厨房の前をやはり落ち着かなく行ったり来たりしている。給食時以外も、彼がいつでも飲めるようにヤカンを置いておくにもかかわらず、彼は散々イライラしたあげく、意を決してお茶を飲むのだ。要求が実現したときはいつものことだが、本当にうれしそうに踊るような足どりで彼のお気に入り

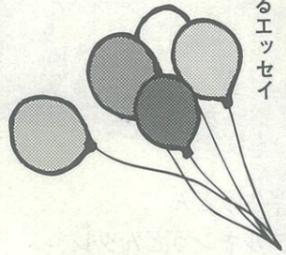
場所(仕事をしないと

きは1人で食堂にいる)に戻っていく。給食もおかわりを断られることはないのだが、自分で直接食器を持って厨房のスタッフに要求するときは、やはり毎回努力している様子である。要求が一回スムーズに伝わったからといって、次から大丈夫とはいかないのはDさんに限ったことではない。確信が持てない(要求と結果の因果関係は分かりにくい)のか、前のことは忘れてしまうのか、その都度同じ葛藤がくりかえされることが多い。また新しい要求が出来てきたり、要求の度合い(今すぐ・もつともつとなど)によって、問題といわれる行動が激しくなったりすることもある。

Dさんの場合、家では母親が何でも察して彼の要求を満たしていた。母親がいないと、自分で何らかの表現をしない限り分かっても見えないことを知った頃から、パンジーでの自傷行為が見られるようになった。自傷をすれば表現しなくても要求が通ると思っていた

時期もあったと思う。スタッフは彼の要求や思いに気づき、受け容れることから始めた。そのうち声や仕草で表現し、それも最初は特定の支援者にだけ、今ではパンジーの多くのスタッフに安心して、むしろ強引に訴えるまでになっている。自傷行為はその時々に出たり消えたりしてきたが、自傷が要求の手段になることはもうないだろう。

前々回に書いた「大丈夫」のNさん、要求が分かりにくく、いくつか考えられる要求を紙に書いて(彼は字を書いたり読んだりできる)貼ってあるのだが、それでも突然パニックに陥ることが多い。ところが先日、私のところに一人でやってきて、やおら私の手を取り窓のところに連れていく。「何をしたいの?」と聞くと「フトン」と言って庭に干してあるフトンを要求した。これは、今年のパンジーでの最もうれしい出来事で、これから楽しみである。来年もよろしくね。



気になるエッセイ

### 想像できないことは 創造できない

林淑美

(クリエイティブハウス

「パンジー」施設長

地域移行とは、知的障害を持つ人の意思と関係なく生活することになった入所施設を出て、さまざまな制度を利用しながら地域の中で自分らしい暮らしを築くことをいう。地域移行は、一部の先進的な取り組みに触発され、さまざまな地域で取り組み始めています。そして、今後、地域移行のシステムは整備されていくだろう。

しかし、地域移行を進めることになるだろう入所施設や関係機関の職員と話す機会があることに、私は言いようのないもどかしさを感じる。「障害の重い人は地域での生活が可能なのか」「障害の重い人の意志確認をどうするか」等のどう巡りの議論をどう進めるかの議論に至ら

ないのだ。

1点目の、「障害の重い人は地域での生活が可能なのか」については、実際に地域で暮らしている障害の重い人の生活を見せてもらうのが最もよい方法だと思う。私のお気に入りのメルマガで、「人は想像できないことは創造できない。自分の中でイメージできないことは体験することができない」という文章を見つけた。大切なのは、本人の能力を基準に、地域移行が可能かどうかを決めることではない。障害の重い人の地域での暮らしを、目で見て心で感じて、自らが関わっている知的障害をもつ人たちの地域移行の実現へのプロセスを組み立てることなのだ。

パンジーでは、「どんなに障害の重い人でも地域で暮らせるし、支えられる」と信じている職員が多い。それは、実践を重ねてきた中での実感である。専門家から「地域生活が困難」といわれている人の地域での暮らしを支援し始める時は、確かに緊張する。どこに住むか、誰と住むか、生活費をどうするか、支援者をどう集めるか、地域との関係はうまくいくかなど、一つ一つを組み立てていく。その過程で、その人らしい暮らし

がなりたっていくのは、とてもうれしい。しかし、すべてが順調ではない。近所とのトラブルをはじめとしてさまざまな事が起こる。その時は、支援方法や環境を変える事などを試みる。行き詰まる時もある。大切なのは、その人が安心して生活できる日が来ることを信じて、決してあきらめないことだ。近所とのトラブルさえも、より親しくなるためのきっかけになること

もある。  
2点目の「障害の重い人の意志確認をどうするのか」については、以下のように考えてきた。何らかの要因で入所施設に入った人たちが再び地域での生活を選び取るには、勇気がいる。不安が先立って当たり前だ。彼・彼女らが、不安を抱えながらも新しい生活を始めようと決心するのは、地域で仲間とともに支えあっている当事者

### 『ローマ人の物語』考

塩野七生著

社会福祉法人創思苑理事長

枝本信一郎



『ローマ人の物語』考などという大それたタイトルをつけてしまったが、この本を論評する意図は無い。熱心な読者というわけでも無い。数年前、ハードカバーで出版され評判になったころには、高いし重そうと、興味は引かれながらも、買って読むこともしなかった。が、最近文庫化され、安いに軽いということ、やっとな読み始めた。ただ、作者の塩野七生は、比較的好気に入りの作者の一人ではある。バランス感覚に優れた歴史観が気に入っている。

さて、『ローマ人の物語』16冊目、初代皇帝アウグストゥスの頃に始まる「パクス・ローマナ」を読み終わるところだが、「市民」という言葉について考えてみたい。筆者はこの言葉を、政治の当事者・歴史創造の当事者としての自覚を持った民衆という内容で捉え、「知的」障害を持つ人々がどのような形で「市民」としてあり得るのかを考えてきた。そんな意味では、「市民」は筆者の問題意識のキーワードといっても良い。

塩野七生は「古代の市民とは、投票権をもつことで政治者に出会うことだと、私は考えてきた。地域生活を選びとった当事者たちと、「障害の重い人」としてどのような暮らしがいいか」について話す時、彼・彼女らは「障害が重いから入所施設がいい」とは決して言わない。「支援者がなんとかしてあげてよ！」と言う。私は当事者に、たくさんさんの経験をしてもらう中で、その人が最も安心してそうにしている暮らしが最適

に参加する権利をもつ人を意味する。どこかで彼らの政治参加意欲を満足させなければ、何かをきっかけに不満が爆発する危険があった」と書く。皇帝に「不満が爆発する危険」を感じさせ、「政治参加意欲を満足させ」るための選挙区割りを実行させる、そのような「市民」としての民衆の政治参加の意識が、紀元1世紀前半のローマの時代にあったのである。  
\* \* \*  
近代の「市民」には、利己的な雰囲気がある。個人主義と不可分の語感がある。このため、個人的というより連帯的な主体性を発揮する知的障害者と、言葉としての「市民」を結びつけることに違和感があった。このあたりの違和感

だと学んできた。  
知的障害をもつ人々と支援について話すとき、迷いが一瞬にふっさされる時がある。シンプルだが力強い。職員は、専門性の確さに迷うより、当事者と地域移行に向けての歩みをふみだすほうが大切だと思う。それは、苦しい時もあるが、わくわくと楽しい。

19世紀初めのヨーロッパ、(市民) 革命の渦中で、市民は自分らが始めた革命なのに、往々にしてその高揚期には、共に革命に立ち上がった労働者に銃口を向けた。それが今や市民と労働者はほぼ同義。源流としてのローマ「市民」を視野におき、19世紀初めの「市民」と「労働者」の姿から、改めて今日的な意味での「市民」像を考える、そんな作業が求められていると思う。

『ローマ人の物語』は、色々なことを考えさせられる本ではある。

### 工場直送讃岐うどん・つゆ



- 半生うどん 1袋 300円
- マルキンうどんタレ 1回分 20円
- マルキンデラックスつゆ 1.8ℓ 870円
- マルキン釜揚げうどんつゆ 340ml 240円
- マルキン生醤油つゆ 150ml 200円

### おすすめ商品

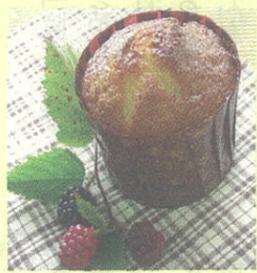
※お電話・FAXでお申し込み下さい。  
宅配便でお送りする場合の送料はお客様負担になりますのでご了承下さい。

### おすすめチョコ



ココアミルクチョコ 楽しみま専科 小 アップルチョコ  
.....各500円.....

### 手作りマフィン



#### おすすめセット

- TEAセット  
(紅茶・番茶・  
コーヒー)
- 和セット  
(きなこ・番茶・ゴマ)  
各350円

### パウンドケーキとクッキーの詰め合わせ

パウンドケーキと2種類のクッキーの詰め合わせです。



ミックスクッキー  
ごま・ココア・ピーナッツ・  
レーズンの4つの味。



パウンドケーキ  
プレーン・フルーツ・紅茶の  
3種類があります



ころころクッキー  
たまごを使っていない、くる  
みたっぶりのクッキー

3種類のセットから、お選びください。

- Aセット・プレーンパウンドと2種類のクッキー
  - Bセット・フルーツパウンドと2種類のクッキー
  - Cセット・紅茶パウンドと2種類のクッキー
- 各1,300円

### チョコギフト



プレジール 2000円



サラマンジェ 1500円

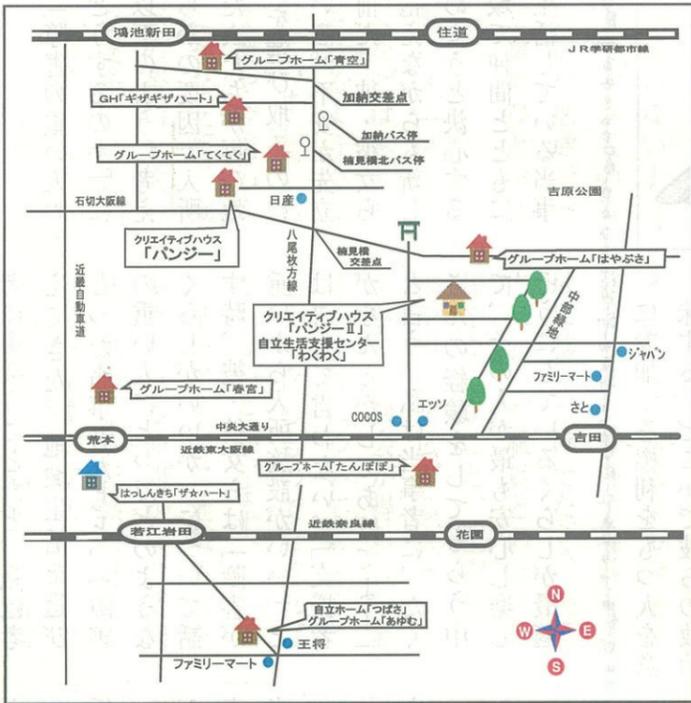


クイーンズギフト 3000円

#### ご注文・お問い合わせ

クリエイティブハウスパンジー  
〒578-0973 東大阪市東鴻池町2-4-8  
Tel 0729-63-8837 Fax 0279-63-8825

### 自立生活支援マップ



#### 最寄り駅

#### パンジー

- (1) JR学園都市線 住道駅  
→近鉄バス八尾駅行・荒本行 加納バス停下車・  
南へ徒歩5分
- (2) 近鉄東大阪線 荒本駅  
→近鉄バス萱島・住道行 楠見橋北下車・徒歩1分

#### パンジーII・わくわく

近鉄東大阪線 吉田駅 徒歩10分

〈書き損じはがき・未使用切手、  
お送りいただいた方〉  
青野喜子 田中きみよ  
明和グラビア労働組合  
(敬称を略させていただきます)

〈カンパ 寄付をいただいた方〉  
松野明子 田口昭男  
新垣純子

ご協力ありがとうございます

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

書き損じハガキ、  
(未使用)切手を  
送ってください!

### パンジーでは、 後援会員を募集しています

- 賛助会員 1口 1カ月 500円
- 本会員 1口 1カ月 1,000円
- 特別会員 1口 1カ月 5,000円
- 郵便振替番号 00950-1-300551
- クリエイティブハウス「パンジー」

#### お問い合わせ

- クリエイティブハウス「パンジー」/東大阪市東鴻池町2丁目4-8  
Tel 0729-63-8818 Fax 0729-63-8825
- クリエイティブハウス「パンジーII」/東大阪市中新開2-11-20  
Tel 0729-60-3610 Fax 0729-60-3613
- 自立生活支援センター「わくわく」/東大阪市中新開2-11-20  
Tel 0729-60-3611 Fax 0729-60-3613
- はっしんきち ザ☆ハート/東大阪市荒本2049-4-101  
Tel 06-6789-6637 Fax 06-6789-6649
- ホームページ/http://www.pansy-net.or.jp  
メールアドレス/info2@pansy-net.or.jp